朝日新聞デジタル　記事

居場所がない…増える子どもの自殺　知ってほしい「SOSの出し方」

有料会員記事

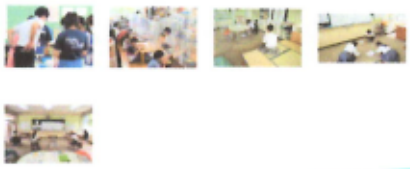
高浜行人、阿部朋美、宮坂麻子　三島あずさ、上野創

コメント1件

スクラップ　メール　印刷

list　2

不登校の子どもらが通う「フリースペースえん」の昼食時の様子。仕切りで感染対策をしていた=2021年7月、川崎市、上野創撮影



文部科学省 の問題行動・ 不登校 調査 で、昨年度、小中学校で 不登校 だった児童生徒と、小中高校から報告があった自殺者の数が、いずれも過去最多となった。子どもたちはどんなことに苦しみ、周囲は何ができるのか。

不登校と自殺者が過去最多に　小中学生、コロナ禍の不調が浮き彫りに →

長野市 に住む中学2年生と小学5年生の兄弟は、 新型コロナ による昨春の 一斉休校 の後から、 不登校 が続いている。

2人とも、もともと学校がつらく、登校しようとしては腹痛などに見舞われた。それでも、将来を心配する父親（53）の強い勧めで登校。母親（48）が教室に付き添うこともあった。

一斉休校 になり、それまでの2人の様子を見かねていた母親は、あえてゲームも動画視聴も制限しなかった。休校明けから通うフリースクール「信州親子塾」で弟は、理事の斎藤光代さんに、休校後に学校が始まった際のことについて「まじでやばいと思ってた。死にたい気持ちになるくらいだった」と打ち明けた。いま、兄弟は症状が治まり、食欲も戻った。

母親は「学校は行かせなければならないものと思っていた。いま思うと、我慢させすぎていた」と振り返る。教員歴が長い斎藤さんは「周りに合わせようと無理を重ね、休校をきっかけに一気に噴出したのだろう。『右向け右』の一斉指導が合わない子には、自分のペースで活動できる環境が必要だ」と話す。

黙って食べる給食「嫌だった」

川崎市 の「フリースペースえん」に通う小6の女子児童は、今年4月から登校していない。友達との関係が苦しくなったという。「学校では自分の性格を出せないし、言いたいことも我慢して、もやもやした。給食も黙って食べるのが決まりで、嫌だった」という。

「えん」を運営する認定NPO法人「フリースペースたまりば」理事長の西野博之さんは「給食は黙って食べ、行事は中止や延期では、楽しくなくなるのは当然。くっついたり群れたりする機会も奪われた ストレス が、学校へ行きたくない気持ちにつながっている面はある」と話す。

も一つ、西野さんが指摘するのは家庭内不和だ。

「で仕事をする夫がいつもイライラしている」「登校したがらない子どもを夫が強い口調叱るので関係が悪化した」。コロナ禍となり、主に母親からこうした声を多く聞くようなった。「子どもの心に負荷がかかり、学校で友達とトラブルになったり行き渋るようなったりしている」

一で、集団が苦手な子にとっては、オンライン授業などの対応が望ましい場合もある。野さんは「多様な子どもの存在を認め、対応をシフトする機会とも言える。 不登校 多いことが学校に何をつきつけているか、考えてほしい」と投げかける。

登校 だった頃に「えん」に通い、今は登校する中2の女子生徒は「我慢して通っていたど、コロナの休校やオンライン授業をきっかけに登校しなくなったという子は、たくさいるはず。きついなと思う気持ちは分かるから、行きやすいように、学校のほうが変ればいい」と話す。

SNSなどの相談窓口には、連日、子どもたちからの切迫した声が寄せられている。

「校でいじめられ、家ではいつも親がけんか。もう死のうかと思って、いま川辺にいる」「親からの暴言暴力の ストレス で、リストカットがやめられない」

自対策にとりくむNPO法人「ライフリンク」が運営する、SNSでの相談窓口「生きづらっと」には、1日300～400件ほどの相談が寄せられる。うち、2割弱が小中高校生からという。

「周りに知られたくない」　相談ためらう

指する根岸親（ちかし）さん（43）は「コロナ禍で外部との接点が制限され、もともと庭でしんどい思いをしている子は逃げ場がなくなった。親の仕事が減ったり在宅ワークが増えたりしたことで、『家に居場所がない』という声もよく聞く。コロナによる環境の化や ストレス のしわ寄せが、厳しい状況にある子にほど、強くいっている」とみる。

スールカウンセラーなどの配置は進んでいるが、根岸さんは、「周りに知られたくない」して相談をためらう子が少なくない、と指摘。「一部でとりくみが進んでいる『SNSの出し方』の教育を、もっと広める必要がある」と語る。

24時間365日、 チャット 相談を受け付ける「あなたのいばしょ」にも「死にたい」「い、死ぬ用意をしている」など切迫した声が寄せられている。

昨3月～今月11日に小中高生から受けた相談のうち48・3%が「死にたい」思いを強く感る、と回答。より切迫した「自殺したい」思いは、35・0%が強く感じる、と答えた。独感をしばしば感じる、と回答した人も35・5%に上るという。理事長の大空幸星（こき）さんは「悩みの要因は複合的で、本人も何が原因か気づけていないこともある」話す。

日自殺予防学会の理事で、児童生徒の自殺予防に関する 文部科学省 の有識者会議の委員務め、学校現場で授業も行っている阪中順子さんは「コロナ禍で大人たちも落ち着かななか、貧困や虐待など家庭環境が脆弱（ぜいじゃく）な子や、精神疾患や発達に偏りがる子などが、これまで以上に精神的に不安定な状態になっている」とみる。

特女子高校生の件数が増えた自殺については、「友達や先生と話す機会が減り、思春期のの揺れがより激しくなって、うつなどの症状を引き起こす例が増えたのではないか。囲の大人が子どもの気持ちをわかろうと努力し、『あたり前』や大人の意見を押しつけのではなく、どうしたらいいか一緒に考える姿勢をもつことが、子どもの命を救うこともつながる」と指摘する。（高浜行人、阿部朋美、 宮坂麻子 ）

LINEで届く「消えたい」の声　不登校最多、つらいときはSOSを →

校内に「居場所」　不登校 減った例も

クラスに入りづらい子も来やすい学校に――。 不登校 の小中学生が過去最多となるなか、校内に教室以外の「居場所」をつくり、 不登校 が減った例もある。

福島市 立北信中学校（生徒数745人）は2017年度に「ふれあい学習室」を校内に設けた。すると、 不登校 生の一部が登校するようになり、今は26人が利用。毎年約40人いた 不登校 生は、今年度は15人ほどになった。

「目標は社会的な自立で、教室へ戻ることではない。安心して過ごせる居場所である点を大事にしている」と 教務主任 の幕田秀明さんは話す。

ベテランの元教員が生徒たちを迎える。19年度から県のSSR（スペシャルサポートルーム）事業の指定を受け、さらに手厚い配置になった。担任らも出入りし、教室の生徒が休み時間に会いに来ることもある。

利用者は登下校の時刻を自分で決め、学習内容も担任らと相談して考える。学習室の先生に助言を受けつつ自習するが、一部の授業は教室に行って受ける生徒もいる。今秋からは教室の授業や行事の様子を中継し、学習室からタブレット端末で参加する試みも始まった。

幕田さんは「 不登校 の背景は一律ではなく、はっきり分からない子もいる。可能な限り個々の子に最適な方法をめざすことで、救われている生徒もいるのだろう」と話す。

学習室の存在が知られるようになり、北信中には進学や転入の希望が増えた。7校だった県内の指定校は今年度、20校に増えた。

福島県 教育委員会の担当者は「教員が配置される指定校になりたいという学校は多いが、人と予算に限りがあり、応えきれない。指定校の経験と取り組みを県内の学校に知らせ、できる範囲で採り入れてもらいたい」と話す。

校内に、フリースクールのような教室以外の居場所を設ける取り組みは、平川理恵・広島県 教育長が 横浜市 立中の校長時代に始めた。 広島県 の小中学校など21校に設置されているほか、 愛知県 岡崎市 も「校内フリースクール」（通称「F組」）として8校を指定するなど、各地に広がりつつある。（三島あずさ、上野創）

子どもの悩みの相談先

（SNSやチャット）

◆「生きづらびっと」 LINE　@yorisoi-chat（日、月、火、木、金曜は午後5時～10時半、水曜は午前11時～午後4時半。受け付けは終了30分前まで）

◆「こころのほっと チャット 」 LINE 、 ツイッター 、 フェイスブック @kokorohotchat（毎日正午～午後3時50分、午後5時～8時50分、午後9時～11時50分・受け付けは終了50分前まで）

◆「あなたのいばしょ」オンラインの チャット 相談　https://talkme.jp/（24時間）

◆「チャイルドライン」オンラインの チャット 相談　https://childline.or.jp/index.html（年末年始は休み）

（電話）